

第 80 回横浜市地域まちづくり推進委員会ヨコハマ市民まち普請事業部会	
日時	令和 2 年 7 月 20 日 (月) 14:00~16:00
開催場所	市庁舎 1 階 市民協働推進センター スペース AB
出席者 【敬称略】	委員：植松、岡本、加藤※、川原、後藤※、菅、杉崎※、鈴木 事務局：都市整備局地域まちづくり部地域まちづくり課 榊原部長、萩原担当課長、飯野担当係長、羽賀、横澤、田口、小林 市民セクターよこはま 加世田、山田 横浜市住宅供給公社 岡部、土屋、高橋 ※オンライン (zoom) にて出席
開催形態	公開 (傍聴なし)
議事	(1) 令和 2 年度のスケジュールについて (2) コンテスト開催方法について (3) 応募手引きについて (4) 令和元年度整備施設の概要について (報告) (5) 令和 2 年度整備施設「みんなの絵本のおうち」オープンについて (報告) (6) その他

事務局	本部会は地方自治法第 138 条に規定する審議会等に該当します。昨年度までと同様に横浜市の保有する情報の公開に関する条例第 31 条により原則公開となります。今回の傍聴はありません。 コンテスト開催前の部会は議事内容がコンテストの審査書類等を扱うため、会議を公開することにより、公正かつ円滑な議事運営が著しく阻害されると認められます。そのため条例 31 条の規定により、非公開とします。一次コンテスト、二次コンテスト前の 2 回の部会を非公開、それ以外が公開となります。
委員	(異議なし)
事務局	杉崎部会長、お願いします。
杉崎	事務局から議事 1 の説明をお願いします。
事務局	資料説明 (令和 2 年度のスケジュールについて、コンテスト開催方法について)
杉崎	質問、意見があればお願いします。
川原	フェイスブックのライブ配信のため、基本的に誰でも参加できるという前提ですね。今までより観客が増えるのでしょうか。
杉崎	オンラインイベントは申込が多い傾向があり、多くの人に見てもらえる機会になるかもしれません。
後藤	去年は情報収集タイム (ポスターセッション) で、委員が各グループと交流しながら質問しましたが、情報収集タイムがない場合は、実質的に委員は発表とグループ補足説明で審査するという理解でよろしいでしょうか。
杉崎	本日は現段階での疑問点や課題を出していただき、次の部会でそれをクリアし、具体的な案が出てくるということです。本日決定する必要はなく、気になった点、危惧する点を出していただき、意見を出していただく位置づけです。

後藤 杉崎	<p>情報収集タイムがないことに少し不安を感じました。</p> <p>情報収集タイムは、情報量が平等になることがポイントだと認識しています。パワーポイントは枚数を増やしたり、字を小さくしたり、発表内に収まらない情報を入れ込むことができます。ポスターセッション（情報収集タイム）と発表時間がほどよい情報として整理できるというツールと聞いていました。やめると、そこをどう担保するか。オンラインでできるのではないかという議論もあるかもしれませんが、その辺の問題提起をしていただきました。事務局が情報収集タイムにこだわっていると思いましたが、やめることについて議論はありましたか。</p>
事務局	<p>コロナウイルス感染症対策を最重視し、提案グループの方からの発表、補足説明、質疑応答で、提案内容を説明し切っていたいただきたいと考えていましたが、ご意見を頂きましたので、検討し、次回の部会で皆様にお諮りします。</p>
杉崎	<p>情報収集タイムには様々な方法があります。説明しているところをカメラで撮影すればオンラインで実施できます。やめる意味を、次回部会に向けて考えていただきたい。今後もシンプルにできるのではという話なのか、まち普請の一次コンテストは何度もやり取りをすることを大事にしてきているので、この良さを残しながらどうするか。情報収集タイムがないやり取りで判断ができるのか少し不安です。</p>
川原	<p>ポスターセッション（情報収集タイム）で熱量を感じたいということです。また、みんなで作業して作り上げる感じもあります。ポスターを作るときの配慮と、発表するときの配慮を分けたほうがいいと思います。作るときもポスターのほうが、みんなで作業できる。提案グループがみんなで作業する意味もあると思いますが、今回ポスターの作成作業を積極的に促していいのか気になります。パワーポイント等であれば同じ場所に集まらずに分担作業ができると思います。もう一つは、ポスターを作り、撮影する方法でも十分できると思います。確かに手描きが入るポスターのほうが、審査員も熱量を感じられますが、最終的に作ったものを事務局でサポートし、パワーポイントで発表する方法もある。作るときと発表するときを整理して考えるといいと思います。</p>
杉崎	<p>発表時間5分とポスターセッション（情報収集タイム）の相性がいい。5分でコンパクトに大事なことを説明してもらうには、パワーポイントは難しい気がしますが、パワーポイントは集まらなくても作れるのが利点です。</p>
岡本	<p>パワーポイントはきれいに作ってしまうと感じています。発表人数は3人までですが、応募数と全体人数で判断したほうがいいと思います。沢山応募があるのであれば3人かもしれないし、応募数が少なければ人数を増やしたほうがいいと思います。</p>
杉崎	<p>応募数で発表時間が変わるため読めませんね。パワーポイントの話は同感です。応募の増減について、事務局いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>応募相談件数は例年と同じくらいです。一方で、会場に集める人数を部屋の容量に合わせて半分に抑えるルールになっています。例年どおり応募があったとき、収容人数を考えると3人くらいとなります。応募グループ数が決定後に、できる範囲という考え方もあると思います。</p>
杉崎	<p>応募数が確定してから、次回の議論ですね。例年は昼休憩の議論が大事ということもあります。審査員の動きも変わってきますか。</p>

事務局	半日となるため、昼休憩に議論する時間は設けていません。時間を延長せず、半日で密度の濃いプログラムにしたいと思っています。
川原	具体的に削ったところは、発表時間、情報収集タイム、昼休憩でしょうか。
事務局	情報収集タイムをなくしています。応募 10 グループで想定し、プログラムを考えていますが、発表時間や質疑応答の時間も、例年より短縮しています。
杉崎	今までは、審査員が論点を出し、情報収集タイムのやり取りがあり、審査員がどんな質問をしそうか、どの点が課題かを提案グループが自分たちなりに理解した上で、グループとして回答する余裕があったのが魅力だと思います。例年に比べると、人前で話すのが慣れていない方は、瞬発力で答えざるを得ないですね。意見交換が大事だと思いますが、1 団体 3 分ぐらいです。
岡本	休憩時間がありますか。
事務局	休憩時間は 15 分と考えています。
岡本	昼休憩に審査員で意見交換し、情報共有することが、公平な審査には大切だと思います。この時間は取ったほうが良いと思います。
事務局	時間を短縮したプログラムになっていますので、頂いたご意見をもとに検討します。
岡本	グループにとっても、休憩時間があることで、グループで考えることができ、考えが変わることがある。この時間は残しておいたほうが良いと思います。
杉崎	グループとのやり取りで、審査員の質問の趣旨を理解する時間があり、そのうえで回答する。審査員同士も、経験の違いで見え方が違うところについて論点を共有して、午後は役割分担して質問するなど前向きな作戦会議ができています。応募数次第で、時間をつくれるでしょうか。
事務局	開始時間または終了時間を調整し、危惧されている点を対応できるか検討します。
杉崎	コンテストでは審査プロセスではなさそうな時間が大事なので、配慮していただきたい。
川原	意見交換の後に審査員もグループも時間が必要なので、検討いただきたい。
杉崎	公開性を担保するために、昼休憩以外は別室に戻らないとしていますが、休憩時間に戻ってもいいのではないのでしょうか。議論の時間が今年の審査員の中では必要だということ。検討してください。
事務局	検討します。
杉崎	質疑応答の時間が 1 グループ 5 分も難しいですね。2 人が質問したら 5 分を超えるのではないのでしょうか。中間審査はやらないのでしょうか。
事務局	行う予定でしたが、再度検討します。
杉崎	事務局で案を作ってください、メールでやり取りをするのが良いと思います。
事務局	案をお送りしますので、ご意見を頂戴できればと思います。
事務局	休憩時間に委員とグループ双方に時間が必要という話ですが、何分でしょうか。
杉崎	団体数によりませんが、1 団体あたり何分必要かを考えたほうが良いと思います。
加藤	提案グループ以外の方はフェイスブックで見えていただくことになるが、配信を見ているのも疲れてしまう。このような時期なので、1 時間を入替時間とし、審査員は別の場所で議論するのはいかがでしょうか。

川原	現地見学会について質問です。授業で Zoom を試しましたが、なかなかうまくいかず全部録画しました。視察地の電波が弱いと難しいと思います。工夫あるいは事前の策を取るなど、検討いただければと思います。
杉崎	写真撮影し、スライドショーのほうがいい場合もあります。ビデオカメラは思ったように見えないこともあります。
川原	現地で提案グループの方が説明し、それに対して審査員から質問ができることが現地見学ではあると思います。あらかじめ、動画やスライドで伝えたいポイントを用意し、やり取りができる工夫があるといいと思います。
杉崎	やり取りがリアルタイムにできればよく、写真か動画を事前に作ってもらい、それを見た上で、リアルタイムで質疑応答を行うほうが安定しているかもしれません。
川原	事務局で視察に行き、説明してもらって、質問を事務局で行う動画を作るなどができると思います。
岡本事務局	現地見学は重要なポイントだと思います。密になるからやらないということですか。密になることが一番大きいです。
岡本植松	例えば審査員をわけて、2か所ずつまわるのはいかがでしょうか。現地を見るのは、外さないほうがいいと思います。審査員2人で1、2か所ずつ担当し、話を聞く。委員の皆さんからの質問もあらかじめ受けておき、投げかけるようなやり取りをする。代表としてアドバイスもするし、ほかの審査員にも現地について紹介するのはどうでしょう。
杉崎	提案グループも審査員もたくさん集まるのは良くないので、現地も少人数で対応していただき、審査員2人、事務局1、2人で現地を見学するご提案ですね。
植松	一次コンテストの発表方法を自由にしていきます。模造紙ではないとすると、整備場所の映像が出てくると思うので、その上での二次コンテストだと思います。
杉崎事務局	コロナウイルス感染の対応ができれば、現地に行ってもいいですね。グループ分けをして、現地を見たほうがいいのかというご意見であれば、その方向で検討します。
川原	委員の中でも、現地を見たいというのと、見たいけど不安というのを全体の合議でやるのは酷だと思います。両方選べる形を検討していただければいい。応募者も現地で見たい人とそうでない人がいるので、何かオプションがあるといいと思います。
杉崎事務局	提案グループも、整備予定地に来てほしくない、いろんな人が出入りするのを嫌だということもあるかもしれないということですね。選択肢も用意するところも含めて検討しましょう。
事務局	資料説明（議事3 応募手引きについて）
杉崎事務局	審査するときに、二次コンテストまでの活動をどう見たらいいか、考えないといけません。二次コンテストまでの間にグループでワークショップを開催していますが、今年度はグループの活動への思いを聞いて、審査していくのでしょうか。
事務局	資料説明（議事4 令和元年度整備施設の概要について（報告）、令和2年度整備施設「みんなの絵本のおうち」オープンについて（報告））
杉崎	コロナの影響で拠点の運営が厳しい整備団体があると思いますが、事務局に相談があれば、共有していただきたい。

事務局	直接相談は来てはいません。市民局でコロナウイルス感染症の影響による緊急支援の助成事業を行っています。
杉崎	コロナがきっかけで拠点を維持できなくなったという話は聞いていないということですね。落ち着いたら、整備団体を見に行きたいですね。
事務局	補足説明（資料２－２緊急事態宣言等が発令された場合の対応について）
杉崎	コンテスト前にこのような状況になると、いつからできるのか、根本的な議論になるかもしれないですね。
後藤	新型コロナウイルス感染症を踏まえた提案グループの活動における留意事項と書いてありますが、地域への事業説明はどうやってアドバイスしたらいいのでしょうか。
事務局	自分たちの活動の趣旨を書面で説明するなど対面を避けた方法になると思います。
杉崎	市民セクターよこはまでは、市民活動グループにどのようなアドバイスをしていますか。ガイドラインはありますか。
事務局	活動団体から活動をどのようにしたらいいかという相談があります。集まるなどとも言えないので、難しいところです。施設を利用して活動している団体は、施設のガイドラインに沿って、施設を利用してくださいという話をしています。団体からの相談はケース・バイ・ケースなので、状況をお聞きしてお答えしています。
杉崎	情報やノウハウが集まってくると思うので、市民活動や地域活動一般としての情報提供ができるといいですね。
川原	地域にまち普請事業説明するとき、市職員や専門家の方が一緒に行くことで、お墨つきのような効果もあったと思いますが、このような役割を果たす人は行けないのでしょうか。
事務局	地域へ説明に行ったときに、まち普請事業についてうまく説明できなかったという話は聞いています。今までもまち普請事業のパンフレットを活用してくださいとアドバイスをしています。丁寧に説明していきたいと思います。
岡本	さくら茶屋では、さくら茶屋スタイルを目指してソーシャルディスタンスに気をつけ、消毒、体温測定、密を避けて、活動しています。密になるマージャン教室などは全て中止し、半数のイベントが中止になっています。ガイドライン等に従って、できる範囲で行動や態勢をしています。そのグループごとに考えるしかないと思います。いかにうつさない、うつらないか、もしかかった場合はどうするかということも取り組んでいます。かかった場合に責めない。さくら茶屋が10年間築いてきたのは信頼と連帯で、もし何かあった場合は、その人の回復を願って、さくら茶屋としてどうするか。PCR検査を全員に実施し、保健所の指示に従い対応しようと意思統一を図っています。最大限気をつけているけれど、感染するかどうかは分からない。どこの活動団体も同じではないかと思います。まち普請に応募するグループも、コミュニケーションを取らないと応募できないですね。アドバイスをすれば、話し合いは広い場所や公園で行い、意思統一を図っていくことが必要だと思います。様々な情報をどのように受け止めて、どのように取り組むのか、考えて実践する以外にはないと思っています。
杉崎	「気をつけてください」と事務局は言う。具体的には言えないかもしれませんが。今年は、集まり方等について厳しく言えないかもしれないですね。

川原 提案内容を議論するのに、ウィズコロナ下での事業計画なのか活動内容なのか、どう  
いうふうに考えたらいいか議論しておいたほうがいいでしょうか。この時期に行う  
には厳しい活動の提案に対して、審査員はどう対応したら、反応したらいいか気にな  
っています。最初はこうだけど、落ち着いたらこういうふうにしていきたいなど、二  
次コンテストの応募申請書の中に項目を入れる等、応募の段階でも仕掛けをする等、  
どこかで議論できるといいと思います。いかがでしょうか。

杉崎 支援の一つなのか、審査の対象になるのか、両方の位置づけがありそうです。どうや  
ったらいいか分からないということもありますが、岡本さんのお話では、やることが  
明確であれば創意工夫して現実的に対応してくださいという、スタンスでしょうか。  
考えるきっかけとして、応募書類の中に項目があってもいいと思いました。

川原 考えるきっかけとして、応募書類の中に項目があってもいいと思いました。

杉崎 一次から二次での共通する問題、関心であり、本当はもっと早くに知ったほうがいい  
かもしれない。一次コンテストでもその辺を創意工夫として考えてもらうのもありま  
すね。

川原 一次の審査基準はアイデアなので、自由にやっていただいてもいいという気もします。  
二次では、配慮、創意工夫として考えていただけるといいと思います。

杉崎 懇談会のテーマとして情報提供されることがあるかもしれません。市民セクターがノ  
ウハウを整理し、提供するなど。横浜プランナーズネットワークのイベントで、こま  
ちカフェとさくら茶屋の話で「やらなければ意味がないからやることを見つけてい  
く」プロセスが大事だと思います。まち普請整備団体に話をしてもらうのも価値があ  
るかもしれないですね。本当は一次コンテストの前にヒント集があればいいが、難し  
いとすると、一次コンテストが終わった早い段階で、ヒントになる活動集があるとい  
いですね。オンラインもあるし、対面でもお手紙書いたり工夫があったり、会った  
ときの距離の取り方等を提供できたらいいですね。

植松 松ヶ丘自治会館で神奈川区の子育て支援をやってきましたが、25 坪の自治会館に多  
いときには 25 組位の親子が集まっていました。コロナにより、1 日 5 組限定とし、  
月 1 回から 2 回にしました。ソーシャルディスタンスを取ると、回数を増やさざる得  
なくなります。ボランティアのネットワークや組織がしっかりしてないと、スタッフ  
が疲れてしまいます。組織がしっかりしていることが、求められるだろうという気が  
します。物理的なことですが、窓は通風をよくする、冷房したまま窓を開ける、サー  
キュレーターを買う等、経費がかかると思います。経済的な裏打ちがある程度求めら  
れる気がします。

杉崎 いずれにしても、どういう対処をしたかということかもしれないですね。限られた条  
件の中で私たちはこう取り組んだと、拠点系のまち普請整備団体に聞いてみるとノウ  
ハウが出てくる気がします。提案グループが活動できないのかというときに、こうい  
うやり方だったら対応できそうだという資料があると、後押しになると思います。

鈴木 私が関わっているコーラス、発声をするグループは、今は活動ができない状況です。  
年配の人たちのいい和みの時間だったが、家に閉じ籠もるようになっている。まだ 3  
～ 4 か月ですが、これから 3～4 か月もたないだろうと思っています。別の大人数の  
グループは月 1 回、会合を開いていますが、人数が半分になってしまう。全員でき  
ないから、会としての統一した見解を持っていくことができなくなる。そういう団体

杉崎 菅	<p>はどうやって活動していくのか心配な状況になっています。グループの輪を広げていくのが、まち普請事業の目的だと思っていますが、10人未満のグループでこれから取り組むという提案はどう考えていけばいいのか、と考えています。</p>
杉崎	<p>整備団体は共通の苦勞をしていることがありそうですね。</p> <p>コロナ禍でネガティブな側面が出てきていますが、まち普請事業を今年やることで期待しているのは、今回応募する人はウィズコロナを前提に提案してくること。今のように入数を絞るといようなやり方もあるし、審査員が思いつかないようなことも含めて提案してくることを期待していて、審査の中で議論ができるといいと思います。ネガティブなことばかりを考えてもしょうがないという気がしている。審査のやり方は、応募グループ数にもよって議論があると思います。応募するからには、ある意味新しい取り組み方を考えてくるのではないかと期待しています。</p>
植松	<p>具体的な場所があるから、対面しなくても関係が繋がる可能性がある。まち普請があったからこそ、顔が見える関係が評価できると思いました。ウィズコロナの中で具体的な場所を通じてどう関係をつくるかという話が出てくると面白いし、過去の応募団体もそういう評価をすると面白いと思います。</p>
杉崎	<p>外でしたら、空気も換気できて、人もそんなに集まっても難しい状態にならないだろうと思うので、昨年度の金沢区のような外の活動に期待したいと思います。</p>
事務局	<p>拠点が多い中で、流れが変わったりすると面白いかもしれない。本日の議論はよろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>新たな視点のご意見を頂きました。第81回部会時には応募グループ数が決定しています。一次コンテストの進め方を事前にお知らせし、議論いただけるようにしたいと思います。次回もウェブ形式の開催を予定しております。本日はありがとうございました。</p>

**資料**

- (資料1) 条例等 (抜粋)
- (資料2-1) 令和2年度事業スケジュール (案)
- (資料2-2) 緊急事態宣言等が発令された場合の対応について (案)
- (資料3-1) 令和2年度一次コンテスト開催概要 (案)
- (資料3-2) 令和2年度ヨコハマ市民まち普請事業の主な変更点 (案)
- (資料4-1) 令和2年度応募の手引き (第3版) (案)
- (資料4-2) 新型コロナウイルス感染対策ガイドライン (案)
- (資料5) 令和元年度整備施設概要
- (資料6) 令和2年度整備施設「みんなの絵本のおうち」概要